

鶴嶺湖新報 特報

岡本青年憲兵に狙撃され

今朝当病院に於て死去

当局目下眞相取調中

岡本正一代(卅三)は昨廿四日旧正門に於て、憲兵歩哨に狙撃され、重傷を負ひ當病院にて今朝死去した。

オーステン中佐は直に該歩哨を捕縛させ、審問会を組織し、軍部は責任上実状調査に着手した。被害者は建築部のトラックの運転手として就働して居り同日建築部の材木運搬の任務を帯び、旧正門を出で其帰路この惨事に遭遇したものである。当時の同乗者と他の附近に就働中の數名が警察署員の協力下に証人となり、慘劇当時の真相を与へて居る。

ベスト所長は今朝左の如き声明書を発し、各

食堂に於て其の発表をなした。
余は昨日午後憲兵歩哨に狙撃され、當病院に於て今朝死亡した。岡本氏に衷心より哀悼の意を表すものである。

当病院の医務員は全能力を傾注し、其医療に当たり、沢山の人達が輸血を志願した。軍部は現在加害兵の審問に当り、懲戒處分を執行する事にはつて居る。

W.R.A.は今回の狙撃の張本人では無い、然しこの事件に対し遺憾に思ふものである。

現在之れ以上審問会の情報を発表する事が出来ないが、実相が明白となり次第、全情報を所民に発表するものである。

同時にベスト所長は遺族に対し、深甚の哀悼の意を表し、管理部は出来得る限りの便宜を圖る旨発表した。

尚保安部よりの情報に依れば、岡本氏は廿四日午後二時半分頃に狙撃されたもので、病院では惨報に接するや、現場にアンブランシスを送り、氏を病院に收容、橋場医師が主治医となり、病院長スリース代、軍医エドワード氏及び二名の日本人医師が助手となり、全能力を傾注し、其医療に当り、救命に努めたと。

當病院では傷状に鑑み、実相聽取の面談を禁止した。

●長兄幸一氏は本事件に關し、次の如き意旨を洩した。

本射殺事件を圍繞する眞相に關する完全且公平なる調査がなされ、最も公正なる審判がなされる事を要望し、同時に所民が本事件に關聯して、不法の騒擾を惹起しない様にと希望した。

謹んで哀悼の意を表す

鶴嶺湖新報社

一同